

第九章 雑草の原野 (九)

雑草の原野の状況は、実に殺風景であった。自分(王仁)は、いつしか又一人となっていた。頭の上(の方)からザラザラと怪しい音がする。何心なく仰向くとたんに両眼に焼砂(砂)のようなものが飛び込み、眼を開くこともできず、第一に眼の球(眼球)が焼けるような痛さを感じるとともに四面暗黒になったと思つと、何物とも知らず自分(王仁)の左右の手を抜けんばかりに曳くものがある。また両脚を左右に引き裂くこととする。なんとも形容のできぬ苦しさである。頭上からは冷たい冷たい氷の刃で梨割りにされる。百雷の時に轟くような音がして、地上は波のように上下左右に激動する。怪しい、いやらしい、悲しい声が聞える。自分(王仁)は一生懸命になって、例の「アマテラス オホミカミ」を、切れぎれに漸つと口唱するとたんに、天地開明の心地して目の痛もなおり、不思議や(に)わかに(自分(王仁))は女神の姿に化していた。

舟木ははるかの遠方から、比礼を振りつつ此方(此方)へむかつて帰ってくる。(王仁は)その姿を見たときの嬉しさ(何んとも言えぬ心持であった。(二人は再会の歡喜に充ち、暫時休息して(居)ると、後より「松」という悪鬼が現われ(字の印を着けた悪鬼が出て来て、)光りすさまじ(し)き氷の刃で切つてかかる。舟木はただちに比礼を振る、自分(王仁)

梨割り……梨の実を割るようにザックリ二つに割ること。

「松」……聖師さまの在所たる穴太に住む別家(親戚)の上田次郎松氏のこと。

は神名(神名)を唱える。悪鬼は二三の同類とともに足早く(に)南方さして逃げてゆく(の)である。

どこからともなく「北へ北へ」と呼ばはる声に、(王仁は)機械のごとく自分の身体が自然に進んで行く。そこへ「坤」という字のついた、王冠をいただいた女神が、小松林という白髪(白髪)の老人とともに現われて、一本の太い長い筆を自分(王仁)に渡して姿を隠された。見るまに不思議やその筆の筒から硯が出る、墨が出る、半紙が山ほど出てくる。そして姿は少しも見えぬが、頭の上から「筆を持って」という声がある。二三人の童子が現われて硯に水を注ぎ墨を摺ったまま、これも姿をかくした。

自分(王仁)は立派な女神の姿に変化したままで、一生懸命に半紙にむかって機械的に筆をはしらす(の)であった。ずいぶん長い時間であったが、冊数はたしかに五百六十七(冊)であったように思う。そこへにわかにな何物かの足音が聞えたと思つてもなく、前の「中」と(う)の字の(鬼が現われ)て、槍の先に数十冊ずつ突き刺し、おりからの暴風目がけ(見かけて)中空に散乱させてしまつた。そうすると、又もや数十冊分の同じ容積の半紙が、自分(王仁)の前にどこからともなく湧いてくる。またはも筆をはしらすねばならぬような気がするので、寒風の吹きすさぶ野原(野原)の枯草(枯草)の上に乗って、凹凸のはなはだしい石の机に紙を伸べ、左手に押さえては、セッセと何事かを書いていた(く)のであった。そこへ(で)今度は眼球の四ツある怪物を先導に、平だの、中だの、

「坤」という字のついた王冠をいただいた女神……聖師さまの本霊たる坤の金神さま。

「中」……聖師さまに一番立てついたら村竹造氏のこと。

平……四方平蔵氏のこと。

木だの、後だの、田だの、竹だの、村だの、与(與)だの、藤だの、井だの印の入(入)った法被(被衣)を着た鬼がやってきて、残らず引きさらえ、二三丁(二三町)先の草の中へ積み、重ねてこれに火をかけて焼くのである。

そこへ、「西」という(印)のついた(色の蒼白)白(い男)が出てきて、一抱え抜きだして自分(王仁)の前へ持つてくる。鬼どもは一(生懸命)に「西」(印)を追いかけてくる。自分(王仁)が比礼をふる(驚)いて皆逃げてゆく。火は大変な勢で自分(王仁)の書いたものを灰にしてい(居)る。黒い煙が竜(龍)の姿に化(な)って天上へ昇(のぼ)ってゆく。天上では電光のように光(ひか)って、数限りなき星と化(か)してしま(う)た。その星明りに「西」(印)の男(おとこ)は書類を抱(かか)えて、南(みなみ)の空高く姿を雲(くも)に隠(かく)した(す)のであ(っ)た。女神(めがみ)の自分(自分) (王仁)の姿は、いつとはなしに(変化)して(又)元の囚人(囚徒)の衣(い)に復(かえ)つてお(っ)た。俄然(がぜん)寒風(かんふう)吹き荒(あ)み、齒(は)はガチガチと震(ふる)つてきた。そして何(なん)だかおそろしい(き)ものに、襲(おそ)われたような寂(さび)しい心(こころ)持(も)ちがし(だ)した。

瑞月

世を救ふメシヤの御魂と知らずして

苦しめし果て世の様を見よ

- 中……………中村竹造氏のこと。
- 木……………木下慶太郎氏のこと。
- 後……………後野市太郎氏のこと。
- 田……………田中善吉氏のこと。
- 竹……………竹原房太郎氏のこと。
- 村……………村上房之助氏のこと。
- 與……………四方與平氏のこと。
- 藤……………四方藤太郎氏のこと。
- 井……………井上直吉氏のこと。
- 「西」……………聖師さまの妹雪と結婚された西田元吉(元教)氏のこと。

神の道歩む身乍ら根の国の

暗探り行く人ぞ誰なる